

ITL NEWS

No.51

全学共通ライティング・サポート構想の具体化に向けて

1. 全学共通ライティング・サポートとライティング・サポート室への期待

立命館大学 教育・学修支援センター センター長 仲田 晋

全学共通ライティング・サポートについては、2016年度「学びの立命館モデル具体化委員会」の議論の中で、①授業外学習を充実させ、課題を設定し主体的に学ぶ力を育む施策、②グローバルな学びの環境を創出し、国内学生と留学生の学び合い共修を進める施策、を課題と設定し、キャンパス毎のWGを設けて検討を進めてきました。特に授業外学習支援は、「アカデミック・ライティング」や「アカデミック・リーディング」を中心として、各キャンパスの学習支援方針において提起されてきました。その中でも、「アカデミック・ライティング」については、各学部等において、充実した教材の開発や支援窓口（サポートデスク）の開設など、現在までに様々な支援が展開されています。

2019年度の全学協議会においては、卒業論文・卒業研究執筆の土台となる文章作成能力を育て高めるための全学的な日英両言語でのライティング・サポートのあり方（オンラインあるいは対面の正課授業、共通教材の作成、正課外のチュートリアルなど）について、学生と議論を深めました。その議論を受けまして、2021年4月より、「ライティング・サポート室」を開設し、全学的な支援を始めています。

この「ライティング・サポート室」の取り組みが、全ての専門分野（学士課程）に共通した土台となる力量形成、立命館大学の学生が共有しておくべきリテラシーの醸成へ寄与することを期待します。

2. ライティング・サポート室の取り組み

立命館大学 教務課 大田 桂一郎
(担当専任職員)

2021年4月、「ライティング・サポート室」が開設されました。衣笠キャンパス学而館1階教務課事務室内にて、学生からの相談（オンキャンパス/オンラインともに）を受け付けています。2021年度の春学期は衣笠キャンパスのみを対象とし、秋学期よりオンラインツール（Zoom等）を用いて他キャンパスにも展開することを予定しています。

1. ライティング・サポート室が目指している学生支援

立命館大学には16学部が存在します(2021年5月現在)。当然のことながら、それぞれ専門分野も多様に存在し、学術的文章(論文やレポート)の書き方はその専門分野によって規定されている書式、方式、形式により異なります。そのため、ライティング・サポート室では、分野の共通項となる導入段階のライティング支援を中心としています。また、相談に来る学生のバックグラウンド、それぞれの学部教学・専門分野を尊重し、学生相談・学修支援を行っています。



2. 学生の主体的な成長を支援する

近年、学術的文章(論文やレポート)に関する支援は、早稲田大学のライティング・センターに代表されるように、「書き手が成長する」ことを目指したものが主流になっています。

立命館大学ライティング・サポート室でも、チュータリングを行う際、以下の方針に沿って支援を行っています。

- 学生の成長と主体的な学びを促す支援を行う。
- 学生との対話と学生の主体的な考えを尊重する。
- 指導員より一方的な指導を行うことはしない。
- 学生自らが主体的に考えるためのアドバイジングを実施する。

3. チュータリングについて

チュータリングについては、専門スタッフとの個別相談形式で実施しています。ライティング・サポートの担当教員である薄井教授の授業「教養ゼミナール～失敗から学ぶ日本語文章作成の技法～『ことばの管理人』を育てよう～」の開講時限(金曜2限)を軸に、下表の時間割にて相談を行っています。

表1 春学期サポート室開設時限

時限 曜日	3限 10:45～11:30	4限 11:30～12:15	5限 12:55～13:40	6限 13:40～14:25	7限 14:40～15:25	8限 15:25～16:10	9限 16:20～17:05
月			●	●	●	●	●
火							
水							
木			●	●	●	●	●
金	教養ゼミナール		●	●	●	●	●

※●が相談対応枠。春学期は各枠1予約、時限は理系時限表記。

相談時間は40分(+交代時間5分)です。2021年度春学期は専門スタッフ1名にてチュータリングを行っています。秋学期からはTAを雇用し、チュータリングの幅や枠を広げる予定です。チュータリングは、対面での指導、Zoomを用いたオンライン双方にて行っています。形式は学生が予約時に選択できるようになっています。

4. 今後について

2021年度春学期は、すべての取り組みにおいて、試験的な位置付けとしており、詳細な検証が必要となります。本取り組みをしっかりと検証し、更なる充実を図っていきたいと考えています。



参考文献

早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラム

(<https://www.waseda.jp/inst/aw/about/what>) 2021年5月18日最終閲覧

3. チュータリングと学生の特徴～4月・5月の相談を踏まえて～

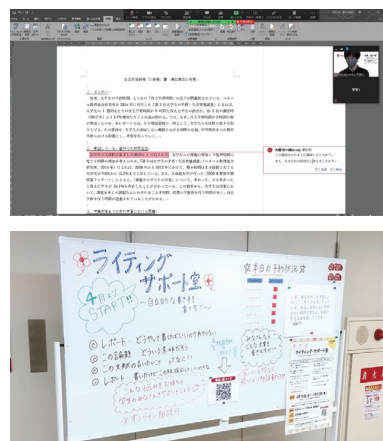
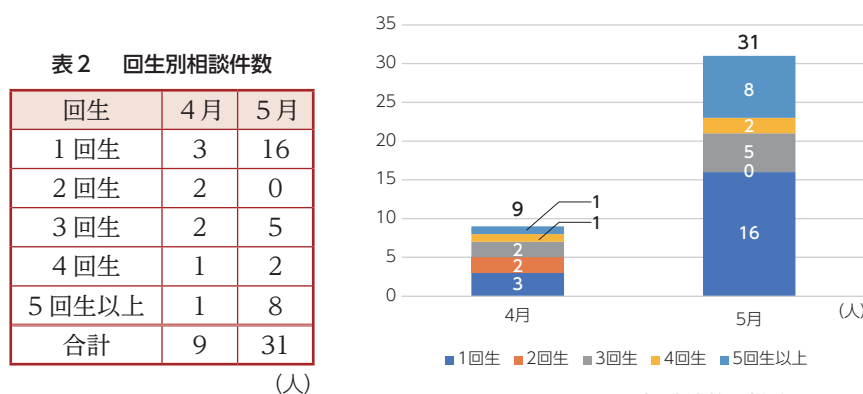
立命館大学 教務課 森 若菜

(ライティング・サポート室コーディネーター・専門契約職員)

2021年4月より「ライティング・サポート室」での相談を開始しました。春学期は試験的な運用であり、衣笠キャンパスの学部生を対象として、1日5予約まで、1週間15予約上限のスタートとしています。5月末までのこの2か月で多数の学生がレポート等の相談に来室しています。ここでは、来室した学生の属性、相談の種類・支援内容から学生の特徴を述べたいと思います。なお、個人を特定されることのないよう、学生の(性格的な)特性には触れていません。

1. 学生の属性について

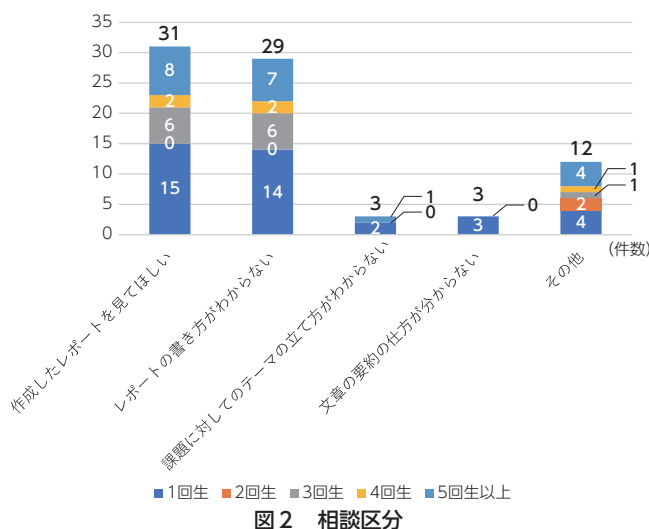
表2ならびに図1を参照ください。来室者の半数以上は1回生が占めています。次に多いのは、5回生以上となっており、1回生と5回生以上が全体の7割を占めています。



2. 相談の種類

ライティング・サポート室への相談の種類をまとめました。実際に来室した学生に相談理由を尋ねると、図2のとおり、低回生、上回生ともに、「作成したレポートを見てほしい」、「レポートの書き方が分からない」という声が多く挙げられました。既書いてきたレポートを確認してもらう意味で、一緒に推敲してほしいという層と、論証構造が分からず、レポートが書けないという層に二極化していることが分かります。

相談件数は、まだまだ発展途上です。今後、更なる検証が必要なものの、レポートに関する不安感や、レポートをより良くしたいという理由から主に来室していることが考えられます。



実際に相談に来られた学生の声

- ・書きながら、自分でもすっきりしない文章と思って違和感があったのですが、相談を受けて、文章の整理ができ、とてもすっきりしました。
- ・結論やまとめを先生の助けの上で導き出すことができ、思った以上のことを勉強できました。違う角度から問題を分析できるようになりました。
- ・とても丁寧に指導していただき、見ていただいた後の文章がわかりやすくなっていることを実感できます。

3. 実際にチュータリングを行った内容

図3は、ライティング・サポート室の相談スタッフが学生に対し、実際に行った支援の内容です。

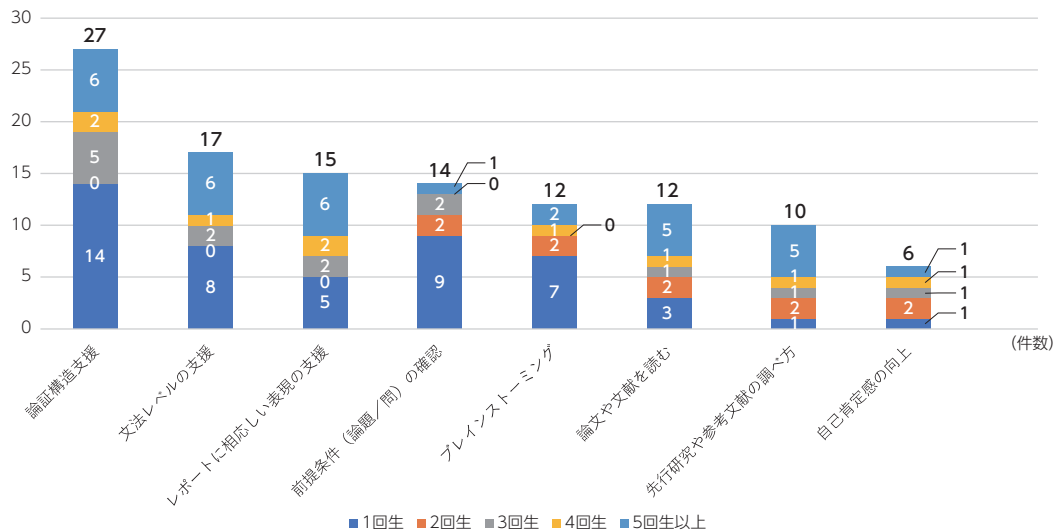


図3 チュータリング内容

相談スタッフが行う支援としては、レポートを構造化するための論証構造支援が最も多いことがわかります。その他、レポートに相応しい表現、論題を正しく理解する（レポートを書く上での前提条件の確認）ことなども支援の中心として挙げられます。

緊急事態宣言を受けて、本学でもオンライン授業が展開されています。ライティング・サポート室では、来室での相談、オンライン（Zoom）での相談を随時受け付けています。いずれも「対話」を重視し、学生が主体的に成長できるような支援を今後も進めていきます。

6月には、レポート試験の論題発表も控えています。より多くの学生に、ライティング・サポート室を利用して頂き、自身の成長につなげて頂ければと考えています。

4. 今後の課題と展望

立命館大学 教育開発推進機構 教授 薄井 道正

2021年4月、まずは衣笠キャンパスから「ライティング・サポート室」がスタートしました。秋学期からはオンラインを通じた全学展開も想定しています。私は「特殊講義・学びのとびら・入門」（2010年度～2011年度）、「特殊講義（アカデミック・リテラシー【日本語の技法】）」（2012年度～2014年度）、キャンパス別学習支援における教材開発、日本語ライティング支援（2015年度～）など、立命館大学のアカデミックライティング教育に10年以上継続的に携わってきました。此度、組織的なライティング・サポートの実施や全学的な相談窓口の開設など、スモールスタートではありますが、本学のライティング教育推進の新たな一歩を踏み出したこと、本当に嬉しく思っています。

ライティング・サポート室においては、既に相談に来る学生で予約が溢れています。限られた取り組みの中ではありますが、人的リソースや相談スペースの問題など、早急に解決すべき課題も明るみになってきています。特に人的リソースについては、秋学期からはTAにも活躍して頂くことを想定しています。もちろん、そのためには、高度な知識と指導スキルを持ったTAの育成、および、そのための研修プログラムの開発が不可欠です。

このように、取り組みはまだ緒に就いたばかりですが、本学のライティング・サポートの更なる充実を目指すべく、立命館の特徴である教職協働の強みを十二分に発揮して、取り組みを前進させていきたいと考えております。みなさまのご支援をよろしくお願いいたします。